

「不登校に関する保護者の支援ニーズに関する調査」の結果について（概要）

令和6（2024）年10月24日

教委事務局教育政策課

1 調査の目的

子供や学校との関わりの中で保護者が感じていることや必要な支援等について明らかにし、今後の不登校総合対策の検討に資する。

2 調査対象

県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍している欠席の多い児童生徒の保護者

3 調査方法

インターネットのアンケートフォームを用いたウェブ調査。県ホームページのほか、市町の教育支援センター、民間のフリースクールや不登校の保護者の会、居場所、公共施設等をとおして周知。県立学校の保護者へはメール配信による周知も実施。

4 回答状況

（人）

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	校種不明	計
回答総数（人）	155	348	1,369	94	35	2,001
欠席1か月以上（人）	133	298	514	47	17	1,009

5 結果概要（主な質問項目・選択肢を抽出。欠席日数の合計が1か月以上のみ、校種不明は除く）

○ 欠席のきっかけ

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	計	備考
クラスの雰囲気	42.4	45.7	40.5	29.6	42.3	
先生との関係	48.5	34.0	29.9	40.7	34.6	
身体の不調	31.1	35.4	41.6	33.3	37.5	
友達との人間関係	30.3	38.1	33.8	25.9	34.5	
勉強	23.5	24.1	16.4	11.1	20.0	

・欠席の契機は、「クラスの雰囲気・先生との関係」・「身体の不調」が3～4割程度、「友達との人間関係」が2～3割程度、「勉強」は1～2割程度となっており、児童生徒向け調査と比較すると「クラスの雰囲気・先生との関係」を挙げた割合が高い。

○ 支援機関等を利用した割合 ()は利用して「よかった」又は「どちらかといえばよかった」

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	計	備考
自宅のみ (児童生徒)	40.2(-)	49.5(-)	56.9(-)	37.0(-)	51.0(-)	
校内の別室等 (〃)	27.3(72.2)	33.3(71.1)	17.4(74.6)	7.4(100.0)	24.2(72.8)	
市町教育支援センター (〃)	50.8(77.6)	44.3(86.0)	14.8(64.9)	3.7(0.0)	30.4(78.7)	
フリースクール等 (〃)	37.1(93.9)	20.3(94.9)	2.3(100.0)	11.1(66.7)	14.4(94.2)	
スクールカウンセラー (〃)	37.9(60.0)	42.6(71.8)	44.2(64.1)	11.1(66.7)	41.6(66.3)	
〃 (保護者)	68.9(56.0)	62.5(71.4)	40.5(71.2)	25.9(71.4)	52.2(68.1)	
スクールソーシャルワーカー(児童生徒)	5.3(100.0)	8.6(80.0)	4.2(75.0)	3.7(0.0)	5.9(79.6)	
〃 (保護者)	11.4(93.3)	12.4(86.1)	4.7(94.4)	3.7(100.0)	8.4(90.0)	

- ・ 支援機関を利用せず、「自宅のみ」で過ごしていた児童生徒は4～5割程度で、学校段階が上がるにつれ割合が高い。
- ・ 支援機関利用者の6割以上が「よかった」「どちらかといえばよかった」と回答しており満足度が高い。
- ・ 市町の教育支援センターは小中学校の約半数程度が利用し高校は15%と利用率が低い一方、いずれの校種も満足度が高い。
- ・ スクールカウンセラーは、小学校では保護者の利用率が高いが学校段階が上がるにつれて低くなり、高校では保護者より生徒の利用率が高い。

○ 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	計	備考
家族の理解や協力	45.5	36.1	28.3	29.6	33.8	
先生との電話相談や面談	25.0	27.1	35.6	25.9	30.7	
スクールカウンセラーへの相談	18.2	18.2	14.5	11.1	16.3	
スクールソーシャルワーカーへの相談	7.6	5.5	0.5	3.7	3.5	
教育支援センターでの相談	15.9	21.3	4.7	3.7	12.2	
フリースクール職員への相談	26.5	14.8	2.9	4.3	10.7	
不登校の親の会での相談	28.0	21.3	5.5	3.7	14.5	
医療機関への相談	34.8	27.5	27.5	40.7	29.1	
出欠連絡の方法等についての学校との相談	31.1	26.8	10.4	3.7	19.2	

- ・ 「先生への電話相談」は2～3割程度。
- ・ 「家族の理解」、「親の会」、「フリースクール」、「医療機関への相談」は小学校では高いが、学校段階が上がるにつれ割合が低い。
- ・ 「出欠連絡の方法等についての学校との相談」は小中学校で2～3割程度、高校では1割程度。